

>>>つくりかけのページ<<<

乗っ取りのポイント

>>>コテを直接基盤に押し付け無いこと<<<

- 予備はんだ

基盤に配線をする場合、予備はんだという方法をとります。

google検索

リード線をあらかじめハンダでめっきする->配線先に重ねる->上からコテを当て、すこし溶かす。

レバーの配線方法

- サンワスティックを接続する場合、レバーの加工が必要となる。

ボタンの配線方法

- GND側配線を間違えると、ボタンだけでなくレバーにも影響が出ることがある。

トリガー部品の取り扱い

- 可変抵抗を取り外したままにすると、誤作動する
- 可変抵抗のボリュームは知らずに回転することがある。

動作テスト

- PCでも動作するため、簡単にテストができる
- 分解する前に一度は接続して、正しい動作を把握しておく

一度に配線せず、テストと配線を繰り返す

純正コントローラ

- 3.800円ほど。
- 無線版、有線版が存在する

構造

配線図

分解

6+1つのネジ

- 一見して解る6つの他に、バーコードシールの裏に1つ隠されている
 - 無線コンの場合、ネジを回すにはT-8のトルクスドライバーが必要

トリガー部の構造と取り扱い

- プラスチックのトリガー部分
- 基盤にはんだ付けをする場合、トリガー部分は除去する必要がある。
 - 方法1：ニッパーやホットナイフで、切断する
 - 方法2：米国人の英知を借りて、上手いこと分解する
 - 方法3；基盤から可変抵抗を外してしまう
 - 可変抵抗が存在しないと、誤動作を起こします。外した後は、必ず付け直すこと。
- トリガーの押し込み量を電流量に変える可変抵抗部分
 - ボリューム部分が知らずに動いて、L/Rが押しっぱなしになることがある。
 - ホットボンドなりなんなりで、最初に固定してしまうのをオススメ。

- 基盤から除去すると、誤動作を招きます。
 - どうしても外したい場合は、10K の抵抗やニクロム線に差し替える。

はんだポイント

- はんだのコツ
 - 予備はんだ・はんだメッキ
- 炭素接点
- 基盤背面

サンワスティック(JLF-TP-8Y)への配線

- JLF-TP-8Yは、単純に配線しただけでは正常に動作しない。レバー側で上下左右のGND側配線が一本に繋がっている為。
 - 配線基盤を取り外すか、ナイフ等で深く傷を付け、配線をカットする。

セイミツスティックへの配線

- セイミツスティックは、単純に上下左右をそれぞれ接続すれば問題無し。

ヘッドセット端子引き回し

- 直径2.5mmの超小型ステレオプラグで延長してやるのが簡単
 - 純正ヘッドセットを使用する為には、加工が必要
 - ヘッドセットの有無にかかわらず、ヘッドセットONのアイコンが表示されてしまう。

DOA4・FSEX2スティック

- DOA4スティックの海外版が、FSEX2スティック
 - DOA4スティックは生産終了、極めて入手困難。

FSEX2スティックは、現在でもPlay-Asiaなど海外通販店で入手可能。8,000円ほど。

-
- コストはかかるが、乗っ取り難易度は格段に低い

マイクロSW入れ替え

- 信号を乗っ取るのではなく、レバーを分解して内部部品を入れ替えてしまう方法。
 - ハンダ不要。綺麗には固定されないので、ホットボンド等を利用する。

典型的失敗

上手く動かないと思ったら、まずPC上で動作確認。

- レバー入力がおかしい
 - サンワスティックの場合、上下と左右で独立した配線をする必要がある。
 - ボタン側の配線を間違えた場合でも、レバーに影響がでることがある。
- L/R等がボタンが押されっぱなしになる
 - L/Rの変位抵抗が、取り外されたままになっている
 - L/Rの変位抵抗が、知らない間に回転している
 - ボタンの配線が短絡している

編集メモ兼ツッコミ欄

- うーん。とっちらかりまくり。 -- 名無しさん (2007-11-08 19:51:35)
- Xbox-Sceneフォーラムに対するURLを貼り付けると、スパムだっことでさっくり蹴られるっぽい。

テスト

[:Sandbox](#)

200x 200 お絵かきする

200x 200 お絵かきする
